

牧師所感： 圀圀の兄弟からの手紙

筆者は圀圀の兄弟達と長い間、文通を通してキリストにある交わりを続けてきている。文通を交わしている兄弟達は数人が居て、日本の地域から言えば、仙台、福島、岐阜、加古川の地を挙げることが出来る。

ところで 福島、仙台、加古川にいた 兄弟達は刑期を終えて、社会に復帰している。

さて、現在 文通の交換を続けている兄弟達は、二人共に岐阜刑務所にて、服役中である。筆者は高齢で、キリストイエスの父なる神様からのお召しがあるまで、この世で神様から与えられている使命に生きる者である。

そのうちの一人 I.S.兄弟は、キリスト者になっていて、筆者とは信仰を同じくする兄弟として交わっている。他の兄弟は信仰者にはなっていないが、文通を交わす相手柄である。さて最近 筆者は体調を崩して病院に入院することとなって、15 日目に退院した経験を持つ。そのことを知った I.S.兄弟は入院の消息を聞いて心を痛み、下記の恵文をしたためて筆者に贈ってくれたのをここに掲載する。

申 鉉錫 様

ご待降節 繁多の折から、先生始め皆様には 尚 ご精励のことと拝察いたします。

寒気 日増しにつのり、冷え込みの厳しい日が続いて居りますが、体調くずされたりして居られませんか。私の方は相変わらずの日々で健康を守っていますので ご安心ください。先生宛に去る 2 月 19 日付で 私信 認めさせていただきましたが、一向に返信が届かず 諸々思い悩み、涙に暮れています。

先生から届いた過去の書簡には、I.S.兄弟の事は今後も支え、要望に応じて行く、と言う内容の書簡があります。5 通程届いています。一番の頼り処の先生から 信書が届か無いのが辛く、悲しく、寂しく、苦しく情け無いです。

毎週届く牧師所感を拝見する限り、先生の身体のことにも心配でなりません。

私自身の朝晩の祈り中で、先生のお身体を悪くされ、入退院を繰返しされている事、所感に記されているのを拝見すると留処も無く涙が零れ、胸が締め付けられます。快方されるよう祈りしてます。

私の満期日は 2036 年 2 月 6 日です。あと 11 年少々あります。先生に宛てた私信に、私が社会復帰する時は 先生のご年齢は 102 歳に成られます。それまで元気で居てください。先生のご長寿を日々お祈りしています、と記したところ、君は私の長寿を願ってくれている事、非常に嬉しく思う。I.S.兄弟の手紙と祈りに支えられ、日々健康で過ごすことが出来る、感謝すると記された手紙が私に届いた。一日たりとも 先生の健康とご長寿の祈りは欠かした事はありません。

下に記した「聖きキリストのとおきおき」、「神の意向によって仕える」、「御心を求める祈り」を先生が発行される牧師所感に掲載される事を祈って、^{かくひつ}擲筆とさせていただきます。向寒の折、呉々も健康にご留意され、お体大切にして感冒の予防に努めてください。

先生のますますのご活躍にご長寿をお祈りしています。

2024 年 12 月 14 日 記

I. S.